



コンピュータ特集

電子決済は ゴルフ場に普及するの その可能性を探る



〈特別インタビュー PayPay(株) 中村 勝氏〉

10年後はキャッシュレス比率 4割に?

2017年閣議決定された「未来投資戦略2017」にてKPI(重要な評価指標)として「2027年までにキャッシュレス比率を4割程度とすることを旨す」となった。

そもそもキャッシュレスの定義とは何だろうか? 経済産業省が発表した「キャッシュレス・ビジョン」によると、「広汎に共通的に認識されている定義は存在しない」ので「物理的な現金(紙幣・硬貨)を使用しなくても活動できる状態」だそう。現在(2015年)の日本の比率は18.4%で、トップの韓国89.1%は別格としても、イギリス54.9%、アメリカ45.0%と世界各国と比較しても、その数字の低さは驚愕である。(表1参照)なぜ日本では普及しないのか? それは、日本のお金は偽物が作られにくく、また全国いたるところで現金の出入れが手軽かつ安全にできる。日本には大手銀行・地方銀行などのATMが約11万台設置されているそう。つまり、現金の信頼性が諸外国にく

表1 各国のキャッシュレス決済比率の状況 (2015年)



ら圧倒的に高く、これはこれだけ誇るべきことではないだろうか。

推進する3つの理由とは

利便性も信頼性も高い日本の通貨。ではなぜ政府はキャッシュレスを推進するのだろうか。その理由は大きく言うところ三つある。

一つは人口減少問題だ。一説には2045年には1億642万まで減ると予測され、当然、労働人口も減少し、2065年には65歳以上が国内人口の約4割を占める。そうなること、人間の作業を機械や技術に頼らざるをえなく、キャッシュレス化もその一環である。もう一つは、大幅な経費削減で

ある。先ほど日本にはATMは約11万台あると書いたが、それにかかる費用はなんと年間約6980億もかかっている。現金流通にはその他にも様々な費用が発生するが、キャッシュレス化で1・6兆円のコストダウンが見込めるとの試算もある。(表2参照)

最後の一つは、急拡大するインバウンド対応である。今年年間約3000万人が日本を訪れるわけだが、VISA社の委託調査によると現金しか使えないことに不満を持つ外国人観光客は4割存在すると言われている。また現状のキャッシュレスのインフラを整備しないと、2020年に訪日インバウンドが4000万人になった場合の機会損失は約1・2兆円になると試算している。今年ラグビーワールドカップ、2020年はオリンピック、そして2025年には万博が開かれ、訪日外国人が増えるのは間違いない。その消費活動を活性化させるためにも、キャッシュレス化の整備は急務であろう。

ゴルフ場では圧倒的に 現金とクレジットカード

では、ゴルフ場に目を向けた場合どうだろう。精算は主に現金及びクレジットカードで、飲食店などに比べるとクレジットカードの普及率は高く、ほとんどのゴルフ場で使用できるのではないだろうか。そしてその比率も高くあるカード会社の調査では、7割がクレジットカードでの決済だそう。そういう意味では、ゴルフ場における「キャッシュレス化」は進んでいるのかもしれない。

しかし、電子決済は多様化している。先日、ある雑誌に「大手外食Sの凋落」という記事が掲載された。記事ではSは実名で、誰もが知る大手外食チェーンである。コスパの良さで、学生、ファミリー問わず、絶大な人気を誇っていたSはなぜそっぽを向かれたのだろうか。全面禁煙化、一部メニューの見直しなども原因であるらしいが、大きなファクターは現金のみの営業形態だというのだ。Sはショッピングモールなどフードコート店を除き、電子マネーはもちろんクレジットカードも利用できない。それを特に若年層が敬遠した。今の若者は、財布は念のため持つが、ほとんど出さずにスマ

ホだけでほぼ生活できるらしい。なので、外食やコンビニの選択基準は「スマホで決済できるか」なのだそう。そして、スマホで決済する大抵の人は、さまざまな決済方式にクレジットカードを紐づかせ、ポイントを上手に貯めている。つまり、若年層はクレジットカードで直接決済する人すら減っているのだという。この是非を考えてもしょうがない。時代は変わり、決済方法も多様化し、それが普通となっている若者を次世代ゴルファーと

して、呼び込まなければならない。むろん、すべてのゴルフ場がコンビニのように「電子マネー使えませ」と派手なポスターでPRすることはない。ただ、未来に備える用意は必要な

表2 キャッシュレス化で見込める「1.6兆円」のコストダウン（試算）

業態名	キャッシュレス化により省くことができる内容と金額
印刷局・造幣局	銀行券製造委託費500億円、貨幣製造コスト150億円
銀行ATM・コンビニATM	ATM機器費・設置費4120億円、ATM事業運営経費1460億円、ATM警送会社委託費1400億円
流通・サービス業	現金関連業務人件費(レジ締め等)5000億円、キャッシュャー等設備投資600億円、警送会社委託費500億円

〔平成29年度産業経済研究委託事業（我が国におけるFinTech普及に向けた環境整備に関する調査検討）調査報告書〕（野村総合研究所）より一部抜粋。

のではないだろうか。便利になればなるほど、客側の要求は多くなり、取捨の基準も厳しくなる。いざれにしても、「支払い」の選択肢が幅広い施設が生き残るのではないだろうか。電子決済会社各社の特色やメリットは様々である。山口県で初めてQR決済を導入した中須ゴルフ倶楽部の道源英幸氏に話を聞いたので参考にして欲しい。

道源 現在の所、現金、クレジットカード各社、PayPayの3種類になります。

—— 導入の経緯を教えてください。

道源 やはり国策のキャッシュレス推進との事があり検討を致しました。山口県は田舎なため、コンビニくらいしかQR決済が出来るところが無くなり迷いました。しかしいざれば導入をすることになるだろうと判断をして、どうせならば県内の業界初になろうと決めました。

—— それで、PayPayであった理由は？

トしようとなり、多くある決済業者の中から検討したのですが、やはり、キャリアがバックについている会社となり、また手数料が無料である、PayPayの導入に決めました。

—— 現在の決済比率はどうでしょう？

道源 現金とクレジットカードが約半々です。これに最近少しだけPayPayが入った感じです。

—— 今後の展開、展望について教えてください。

道源 様子を見ながら他の決済も導入しようとは思っているのですが、手数料が有料のところは厳しいでしょうか。飲食店のクレジットカードの料率に比べたら3・24%は安いのですが、ゴルフ場にとっては高い料率になるため、そこがネックになると思っています。山口県でも、少しずつですが、QR決済の出来る業種が増えてきているので、お客様の要望を見つめます。PayPayさんも実際に山口県ゴルフ協会の会合の時に「説明会をさせて下さい」と営業に来ていらっしゃるようで、今後の展開に期待しています。

まずPayPayの概略を教えて下さい。
中村 当社は2018年6月にソフトバンク株式会社とヤフー株式会社の出資により設立、ソフトバンクグループ投資会社のソフトバンクビジョンファンドが投資する世界有数のスマホ決済会社PayTM社の技術協力を経てサービス開始しております。
現在政府は生産性向上や訪日外国人観光客増などの手段として、また増税時の優遇措置手段としてキャッシュレス化を推進しています。

当社は後発のスマホ決済事業社として数多くの加盟店様とご縁を賜り、より使いやすいサービスやアプリケーションを開発、多くのキャンペーンを準備しご利用頂いております。
加盟店様の決済手段は多様な方式をご用意しておりますが、特にお客様にお支払い手続きを頂くユーザースキャン方式では2021年9月末まで決済手数料を頂きません。
また、ソフトバンクグループとも縁の深いAlipayもPayPayのQRコードでお支払い可能であり2020年9月末まで決済手数料を頂きません。
加盟店様は設備投資・決済手数料のご負担なく電子決済環境が整いますしアジア中心に10億人の利用者を持つAlipayも利用可能であればご商売にもお役に立てると存じます。

加盟店の拡大の方法は？
弊社は現在全国に20箇所のお客様は1
営業拠点を構えておりますが、広域に渡りご活躍頂いている企業様は本社から、一方、地域に根ざしてご活躍頂いている企業様は地域営業拠点から営業員がご提案に伺っております。泥臭いですが、一軒一軒ドアを叩いて、「ペイペイです」と言ってお邪魔して、丁寧に説明させていただいております。
また、増税に合わせて経産省や地方自治体、或いは業界団体主催の「キャッシュレスセミナー」が数多く開催されておりありますので、我々も駆けつけてご提案させて頂いております。

先日はあるゴルフ場関連団体さんの依頼で説明会を開催させていただきました。ちなみに、2019年8月時点で、ご利用頂いているお客様は1
000万人、加盟店舗は100万軒となります。おかげ様で、ゴルフ場様の加盟も着実に増えていきます。
現在、PayPayが使えるゴルフ場数は？
中村 オフィシャルでは公表できないのですが、非常に増えておりますし、問い合わせも多数いただいております。我々としてもゴルフ場様は非常に重要なマーケットですので、今後も営業活動に注力していきます。

特別インタビュー

「電子決済の現在と今後の可能性」

PayPay株式会社 営業統括本部 北日本ブロック長

中村 勝氏



い方法に依じて料率が変わるもの
の必ず還元がございませぬ。

会員様はもちろんですがデジタル
のお客様にも多様な支払い手段
は喜び頂けると存じます。

また先述の通り方法によつては
決済手数料が生じませぬしAii
Payも対応出来ませぬ、クレジッ
トカード手数料の削減やアジア圏
来客にも対応出来ませぬ。

—— 導入までの流れは？

中村 WEBやお電話で、お申込
みいただき、簡単な審査の後、ゴ
ルフ場様の登録を済ませた「Pa
yPayコード」というQRコー
ドのプリントされたスタンドやス
テッカーなどのキットをお送りい
たします。後はデバイスで弊社と
の出納やお客様との出納が管理で
きる画面が出てきますので、そち
らで初期設定していただくだけで
完了です。ここまでのお時間は、
混雑具合によるのですが、早くて
2週間、長くても1か月でしょうか。
いずれにしても、お困りのことが
ありましたら、我々が出向いて使
える環境を整えますので、お気軽
にご相談下さい。

—— 競合他社さんとの違いはあ
りますか？

中村 営業拠点が全
国に数多くございま
す事、還元などサ
ービスが多様な事、決
済手数料や海外サ
ービスとの連携などか
と存じます。

ゆくゆくは加盟店
様からの広告やご予
約対応などスマホ決
済ならではの様々な
サービスでもお役に立ちたいと思
います。

—— 今後、電子決済は普及して
いくでしょうか。

中村 ご存知の通り、政府がキャ
ッシュレス推進をということで、
「2027年までにキャッシュレ
ス決済比率を40%に」と発表して
います。今はいたるところにある
ATMにカードを入れるとお金が
出てきますけれど、滞りなくいろ
んな場所で維持するのに1・6兆
円かかると言われてます。日本
円を正しく入れたり出したりする
ための維持費なんですよね。さら
に現金をそこに置いておくという
ことであれば、守るコストもあり
ます。そして、なぜか自分で得た
ものを振り込んだり、引き出すの



にもコストがかかりま
す。電子決済ですと、
信用のやり取りだけ
です、それが紙か金
属かバーチャルかとい
う違いだけなので、そ
ういうバーチャルで信
用をやりとりしている
方が、コストや時間、
他国の人との多様性と
かいろんな可能性が多
いと思うんですよね。ある国の電
子決済アプリは、SNS的な側面
も備えています。ですので、可能
性としては、単なる精算アプリで
はなく、「ボールが15時まで安い
です」とか、「スタート前に飲み
物が冷えています」など簡単にコ
ミュニケーションできる時代が来
るかも知れませぬね。これは現金
やクレジットカードにはないテク
ノロジーでしょう。

—— 今後の目標をお聞かせ下さ
い。

中村 決済は生活には欠かせない
行為です。いつでもどこでもPa
yPayでの決済が出来る様に、
またお客様・加盟店様の双方にお
役に立てる様にと切に願っており
ます。是非実現に向け全社をあげ

て頑張ります。

あとは、納税や寄付など、我々
では行なっていないことも、金融
庁との事業免許次第では可能にな
ってくるので、できるだけ「何か
払う」ということのお役に立ちた
いと思っています。ゴルフに行く
にしても、支払うのはプレーフィ
だけではないですよ。途中のレス
トラン、コンビニ、ガソリンス
スタンド、あるいはバスやタクシー、
宿泊費など、決済場面は無数にあ
ります。その選択肢として弊社の
サービスを利用していただけたら
幸いです。

—— ゴルフ場に何か一言あれば
お願いします。

中村 ご紹介致しました通りPa
yPayはゴルフ場の皆様にもゴ
ルフファーにもお役に立てるメリッ
トの多いサービスだと思ひます。

—— ご興味・ご不明な点があれば我
々が直ぐに駆けつけますので、ぜ
ひ遠慮なくお呼びだて下さいませ。

それと私自身ゴルフが大好きで、
本当に素晴らしいスポーツだと思
っています。ゴルフ業界のますま
すの発展を祈念しております。

—— 本日はありがとうございます。